

マヒのある人でもとばしにくいよう特殊な傾斜をつけた九谷焼の食器シリーズや、握力が弱くても握りやすい設計のフォーク・スプーンなどを、全国の病院や施設に販売していく。

九月には、小松市内に介護ショップを開設して一般消費者にも売り出す。「公的介護保険を見据え、福祉

分野を強化する」（勝木建一院長）方針。今後、ケアプラスではホームヘルパー派遣などの福祉・健康ビジネスを手がけていく。

情報システム外販のため、医療法人日鋼記念病院（北海道室蘭市）は、病院における情報システムの設計・製作・コンサルティングを手がける株式会社「シ

ンク・ワン」を設立した。

新来患者にIDカードを発行したり予約・再来患者を自動で受け付ける「窓口受付システム」や、患者情報を記憶させる「カルテ管理システム」を病院に売り込む。近く、沖縄県那覇市の病院と院内システムのコサルティング契約を結ぶ見通しだ。

病院などの経営環境は厳しさを増しており「全国の病院の七割は赤字」（九六年度、全国公私病院連盟調べ）という。九月の医療費負担増で、高齢者を中心に患者数は減少すると見る病院関係者は多く、「関連ビジネスの成否で、病院の経営格差が広がる」（病院関係者）との見方が出ている。